

### 「あがめられるべき、賛美されるべき神」

早くも11月を迎えました。今年の秋は短いと言われ、すぐに冬を迎えていくのでしょうか。辞典で調べると11月は「霜月」とも呼ばれ、いろいろな諸説はあるようで、「霜降り月」という説が有力の説のようです。この時期も皆さんのご健康が守られ、支えられますようにお祈りいたします。



国分寺キリスト教会では11月12日(土)、「メロディ会四国」という団体主催の集会である「メロディ会四国の集い」(森祐理さんによるトーク&ミニコンサート:午後1時30分会場、午後2時開会)が開催されます。森祐理さんは福音歌手として、日本ばかりでなく、海外でも、歌を通して、さまざまな活動をしておられます。今回は今、話題となっているウクライナ、またポーランドでの避難民支援活動の報告をお聞きしながら、歌のコンサートが開かれる予定で、どなたでも歓迎しています。

森祐理さんが「福音歌手」というお立場で、聖書のよき知らせである「福音」を伝える歌手としての使命に生きておられる姿は、神様から与えられた賜物です。一般社会でも、自分が持っている才能や能力、あるいはさまざまな手段を用いて社会貢献したり、地域の必要に応えるという人材はたくさんいます。教会でも、クリスチャンが一人の例外もなく、神様から何らかの賜物を与えられ、その賜物を用いて神様の栄光を現し、共に仕え合う姿は美しいものです。

また賛美は、クリスチャンたちが神様にささげることのできる感謝と喜びの表れであり、信仰告白でもあります。今もなおコロナ禍にあつてさまざまな制限がある中、工夫をしながらコンサートが開催されていることでしょう。オンラインのコンサートもあるようです。皆さんがご存知のように、コンサートにはいろいろな種類のコンサートがあります。クラシックコンサートのように「聴く」ということに徹するものもあれば、ミュージシャン(ソロやグループを問わず)が観客と共に盛り上げるものもあります。一般論として、聴衆の人たちを感動させ、また喜びを与えるもの、共に喜ぶものが音楽であり、そしてコンサートと言えます。また音楽のジャンルにもいろいろあります。小学生の頃には童謡や唱歌をたくさん習いましたので、小さい頃に覚えた歌というのはいくつになっても比較的、覚えていることが多いのです。

そして私たちが心に留めたいジャンルのもう一つが「讚美歌」です。「讚美歌」と一言と言っても実に幅広いのですが、礼拝や集会などで歌われる、神様をたたえる歌です。聖書を読むと、神様を賛美することについては、古い昔より、行われていたことでした。「讚美歌」と他のジャンルの音楽を単純に比較することはできませんが、大きな違いは、讚美歌は人に聴かせるものではなく、唯一の神様に向かって歌われるものです。聖書の「詩篇」は神様に対する賛美の詩(うた)です。

聖書の詩篇145篇1-3節には次のように書かれています。

**「私の神 王よ 私はあなたをあがめます。あなたの御名を世々限りなく賛美します。主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。その偉大さは 測り知ることができません。」**

天地万物を造ってくださった神様こそが、あがめられるべき、賛美されるべきお方です。人間は何のために生きているのか、それは「神の栄光(素晴らしさと偉大さ)を現すため」とも言えますし、「神を賛美するために、今を生かされている」とも言えます。歌う喜びと感動は、「歌われる対象が誰であるか」をはっきりと知ることによって、深まるものです。恋人や家族、友達に対する歌もたくさんあることでしょう。世界を造られ、私たちを造られた神様に向かって歌うことほど、素晴らしいことはありません。なぜならば、自然界も私たちを造ってくださり、愛し、今も生かしてくださるお方に賛美をささげるからです。先程、童謡や唱歌について触れました。実は童謡や唱歌の中には讚美歌の影響を受けたものも少なくありません。それは童謡や唱歌などを作詞あるいは作曲した人たちの中にはクリスチャンたちがいたからです。森祐理さんが書かれたトラクト(読み物)である「永遠(とわ)のふるさと」を読んだり、6月に教会でお会いした時に購入したDVD(右上の写真)である「永遠のふるさと～唱歌・童謡から讚美歌へ～」を観ると、その歴史や関係性がよく分かってきます。

あなたにとって音楽とは、歌うとはどういう意味があるのでしょうか。ぜひ、教会の礼拝や集会を通して讚美歌の素晴らしさと奥深さ、そして何よりも、聖書を通して、神様ご自身の素晴らしさ、偉大さを知っていただきたいと願っています。また人が神様を賛美する根本的な理由というものを聖書から知り、感謝と喜びをもって応答できますように、お祈りいたします。